



かけ はし  
**懸 橋**



▲自作に力が入る 藤ヶ森山車組  
(おいらせ百石まつり)



▼「鮭の大助」製作に励む 南山車組  
(おいらせ下田まつり)



もくじ

■19年第3回定例会 .....	2～3ページ
■一般質問 .....	4～5ページ
■どうなったあの質問・編集後記 .....	6ページ

# 陳情・妊婦健康診査の追加公費補助について

妊婦健診の無料受診を現行の2回から5回以上に増やすよう要望する陳情書は審議の結果、満場一致で「採択」されました。



陳情について審査結果を報告する  
馬場 正治 産業民生常任委員長

平成十九年第三回定例会は、九月六日から十二日までの七日間の会期で開かれ、人権擁護委員の推薦、条例の一部改正、奥入瀬西団地建築工事請負契約の締結、神明橋補修工事請負契約の締結、消防ポンプ自動車（下田消防団第九分団）購入契約の締結、平成十九年度一般会計及び特別会計の補正予算、平成十八年度一般会計及び特別会計の決算など、報告一件、諮問二件、議案十七件、認定十一件が上程され、いずれも原案のとおり可決・承認・認定しました。

一般質問には、二人の議員が登壇し、町当局の所見を求めました。

また、日本産婦人科学会青森地方部会長から出されていた「陳情書・妊婦健康診査の追加公費補助について」は審議の結果、採択されました。

## 主な議案の内容

### ◆人権擁護委員の候補者の推薦について

任期満了に伴い人権擁護委員の候補者として推薦するもの

山端 節子（阿光坊）  
やまはた せつこ

苫米地 幸一（木崎）  
とまへち こういち

人権擁護委員の役割

国民の基本的な人権が侵犯されないよう監視し救済するとともに、自由人権思想の普及高揚に務めることを使命とし、法務大臣が委嘱する。

### ◆奥入瀬西団地建築工事請負契約の締結について

・契約金額  
九千六百七万五千元

・契約の相手方  
株式会社 柏崎組

・契約の方法  
指名競争入札（十五社）

・工事期間  
二十年二月二十九日まで

### ◆神明橋補修工事請負契約の締結について

・契約金額  
五千五百十二万五千元

・契約の相手方  
株式会社 柏崎組

・契約の方法  
指名競争入札（十五社）

・工事期間  
二十年三月二十五日まで

### ◆消防ポンプ自動車（下田消防団第九分団Ⅱ秋堂）購入契約の締結について

・契約金額  
一千八百三十五万四千元

・契約の相手方  
株式会社 八戸鉄工所

・契約の方法  
指名競争入札（七社）

・納入期限  
二十年三月三十一日まで



提案理由を説明する三村町長

### ◆陳情・妊婦健康診査の追加公費補助について

六月の定例会において委員会付託とされていた「陳情・妊婦健康診査の追加公費補助について」は馬場正治産業民生常任委員長から採択すべきものとして審査結果が報告され、本会議において審議の結果、満場一致で採択されました。

#### 提出者

・日本産婦人科学会青森地方部会長 水沼英樹  
・日本産婦人科医会青森県支部長 齋藤 勝

#### 陳情書の要旨

少子化対策の一環として、妊婦が安心して定期的な健診を受けられる環境を形成するため、妊婦健診の無料受診を現行の二回から五回以上に増やすよう町に要望するものです。

# 補正予算の概要

(単位：千円)

会 計	補正前	補正額	補正後	補正の主なもの
一 般	8,815,580	201,394	9,016,974	街路灯整備工事費 6,800 選 挙 費 ▲4,823 秋堂児童館解体撤去等工事費 4,500 「冬の農業」施設整備事業費補助金 8,046 間木・百石1号線改良舗装工事費 13,850 百石小学校グラウンド改修工事設計委託料 4,000
国 保	2,607,365	9,249	2,616,614	国保老人保健医療費拠出金 28,544 介護給付費納付金 ▲18,953
老人保健	1,502,317	70,239	1,572,556	医療費支給費 12,697
奨学資金	17,107	▲1,634	15,473	奨学資金貸付金 ▲2,280
公共下水	1,213,940	1,139	1,215,079	マンホール等の補修工事費 962
集落排水	104,147	375	104,522	マンホール等の修繕料 375
介護保険	1,522,470	33,437	1,555,907	居宅介護住宅改修費 1,800
霊園事業	13,721	164	13,885	施設管理業務等委託料 164
公共用地	51,186	200	51,386	洋光台団地販売促進用携帯パソコン購入費 200
病院事業	1,025,347	24,103	1,049,450	手術用ベッドの医療器機購入費 6,800



成田 隆 決算特別委員長

九月十一日、十二日に、議員全員で構成する決算特別委員会（成田隆委員長）が開かれ、おいらせ町の一般会計、特別会計歳入歳出の各決算を審査しました。

各決算について、議員と町当局との活発な質疑・応答が行われた結果、九月十二日の本会議でいずれも認定すべきものと決定しました。

平成十八年度  
一般会計と特別  
会計決算を認定  
決算特別委員会

## 平成18年度 各会計の歳入歳出決算状況

(単位：千円)

会 計 別	歳 入 総 額	歳 出 総 額	差 引 額	
一 般 会 計	10,144,174	10,022,314	121,860	
特 別 会 計	国民健康保険特別会計	2,415,945	2,375,400	40,545
	老人保健特別会計	1,589,759	1,553,203	36,556
	奨学資金貸付事業特別会計	15,959	15,068	891
	公共下水道事業特別会計	1,374,220	1,363,178	11,042
	農業集落排水事業特別会計	94,920	94,464	456
	介護保険特別会計	1,527,973	1,499,809	28,164
	霊園事業特別会計	14,170	14,005	165
	訪問看護ステーション特別会計	15,232	13,304	1,928
	公共用地取得事業特別会計	47,184	46,036	1,148
	病 院 事 業 会 計	収 益	940,370	899,129
資 本		83,465	118,023	▲34,558
合 計	18,263,372	18,013,932	249,440	

(合計額は各会計毎に千円未満を四捨五入しているため一致しない場合があります。)



吉田 絹恵 議員

**質問** 給食センター老朽化、木ノ下小学校給食室スペースの狭さ等々の問題を踏まえて、今後学校給食について、町の考え、将来の見通しについて伺います。

**答弁** 現在の給食センターは新築稼働してから三十六年目に入ります。

木ノ下小学校は十三学級から現在は二十学級に増え、作業スペースの拡張が求められております。町財政を考える時、直ちに建て替え、拡張は厳しいものと認識しております。

適時な点検管理に努め、さらに工夫改善により安全で衛生的な施設管理を

**Q** 学校給食はセンター方式か学校単独方式か決断はいかに

**A** 今年度中に結論を出す予定

維持します。

合併後五年間において再編に向けた町の方針について、検討会議を設置し、意見集約を重ねております。今後さらに関係者の意見を広く聴取し、学校単位の単独学校方式か、共同調理のセンター方式で実施すべきか今年度中に結論を出すこととしております。



建築後36年目の百石地区学校給食センター

**質問** 給食費の滞納状況について伺います。

**答弁** 学校給食費未納状況であります。学校給食運営にかかわる保護者負担分の未納額は、平成十八年度末で給食センター分四百八十九万円、単独校分三十九万円であり、全体で五百二十八万円とな

っております。

未納者にたいして文書による督促、家庭訪問を行い、徴収に努めております。今年度から単独校と同じように、未納者に対して学校から児童生徒を通してお願いする方法に変えております。今後さらに回収に努めてまいります。



児童675人分の給食をつくる木ノ下小学校の給食室

**質問** 百石中学校を新築する場合センター方式か、学校単独方式とするのか、コストの差異はどれ位か、検討は進んでいるのか伺います。

**答弁** 今、センター所長を中心に関係課と検討会議を重ねております。今週中に四回目をを行い大体的方向を出す予定です。将来のランニングコストを考えながら今年度中にセンター方式か単独校方式か、もしくは民間委託か多様な方向で検討し方向を定めたいと考えております。



親子で給食を（参観日にて）百石小学校



西館 芳信 議員

# 北部地区への私立保育所設置を進めたいとする町長の姿勢に対する大いなる疑問を問う

**質問** 我が青森県の人口が百四十万人を切るのは時間の問題であり、当町も北部地区の人口増加傾向がジリ貧で、間もなく人口の減少が妨げられない状況に突入するといわれる。

こうした中で、町長が北部地区に私立保育所を新設したいとした根拠、つまり、保育所ニーズの具体的な把握策の概要、二つ目に、平成二十一年開園に向けた施策をスタートした根拠について答えていただきたい。

**答弁** 次世代育成支援対策行動計画策定作業の一環として、北部地域の未就学児童のいる世帯に対し、本年三月に二一ス調査を実施したところ、「新たな保育所ができれば利用したい」等の回答があり、六十人規模の保育所が必要であるとの認識に立ち、行政側としては早期の対応、早期整備という考えに基づき、平成二十一年開園を目的にしたわけです。

**再質問** 本来、教育の立場に立った子供達の保育教育に鑑み、業者間にも公平な施策が講じなければならぬのに、既に事業者が決定しており、その事業者が土地を取得し、造成にまで着手していると、ちまたで言われている。このことについて、

町長の所感を、それと北部地区の保育所が、「新設するのではなく、現状に合ったところの分園対応にしたい」と願いだしたところ、町長がこれを断つたという動きが実際にあったのか伺う。

**答弁** 一部業者の動向が取りざたされていることについては、行政側の動きや情報を聞き、名乗りを上げようと準備している方もいるかもしれませんが、分園対応を申し入れた業者はありましたが、特定年齢児であるゼロ歳児を対象としておりましたので、北部地域全体の需要には応え得るものではないと判断し、お断りしたものです。

## 再々質問で訴えたこと

### ① 行政側の具体的な論拠の欠如

新設の保育園が必要だというのであれば、もっと説得力のある数字だとか背景が話されてもいいのに、いつの時点で、どれほどの町民から新設の要望が出たかなど、はっきりとしたものが全く見えない代わりに、町政に携わっている一部の人間と、その周りにいる人たちの都合だけが見える不可思議な施策である。

**答弁** 北部地域には町人口の三分の一に当たる八千人がいます。そこに保育園が一つ、幼稚園が一つあります。人口が増加している特殊地域であることから、六十人定員規模の保育園が必要と判断しました。

### ② 町を取り巻く環境を無視したゴリ押し策

当町も、すぐに人口減少期へ突入するのが目に見えており、財政状況も地方債を起すには知事の許可を必要とする自治体グループに仲間入りしてしまつた。

そんな財政状況の中で特定の業者に何千万円もの補助金を与え、定員に満たない保育所を細々とそれでも、あの手この手でやりくりをしている町内の既存の保育所関係者



造成の進む北部地区

の思いを無視してまで、町長はどんな保育所が必要だと判断し、多くの反対意見を前に、この施策をゴリ押しするのだろうか。

**答弁** 現在、百二十人定員の保育園がありますが、目いっぱい百五十人が入所している。それでもまだ足りない状況の北部地域には、将来を考えてもう一カ所必要だと思えますので、ご理解願います。

# どうなった あの質問



国道四十五号から  
錦ヶ丘団地への入口付近

これまで、定例会で行われている一般質問の中から、その後どうなったか、追跡調査してみました。今回は平成十八年九月議会で、議員が質問した交通安全対策について経過を調査しました。

**質問** 国道45号錦ヶ丘団地への右折レーン設置の見通しは。

**答弁** 管理者である国に要請した結果、現在、現地の測量業務を実施しており、今後は設計を行い、予算を獲得して整備に取り組むとのことです。

**経過** すでに、工事の発注が行われ、平成19年度内に工事が完成する見込みです。

## 編集後記

議会広報は一年間に四回、限られたページ数（予算）の中で議事のすべてをありのまま市民の皆様にお知らせすることが使命であり、「懸橋」の誌名もその思いを込めて付けられたものです。

行政から完全に独立し、行政と議会（議員）との質疑応答や論戦をできるだけ忠実に紙面に反映させながら、議会のテーブルに乗ったすべての情報を公開することが私たち編集委員の仕事です。

しかしながら数十ページに及び一般質問の議事録を、その熱気を保ったまま一議員の持ち枠である一ページに凝縮することは至難の業であることも事実です。

これからも議会を傍聴する機会が少ない市民の皆様へ「楽しいな議会便り」をお届けするために一層の努力をいたしますが、一度議会に足を運んでいただき現実をご覧くださいたくともおすすめていたします。

議会広報編集副委員長 馬場 正治 記



議会広報研修会の様子（青森市）